

令和2年度
福井県教育委員会の事務の管理および執行の状況の
点検・評価報告書

令和3年9月

福井県教育委員会

— 目 次 —

I	はじめに	1
II	点検・評価について	2
III	組織および決算	
1	組織	3
2	課別決算額調	4
IV	令和2年度福井県教育委員会の活動状況	
1	教育委員会の会議開催等の状況	5
2	教育委員の活動状況	9
3	審議会等審議状況	10
4	教育委員会関係の許認可の状況	10
5	県立学校入学者選抜学力検査結果の状況	12
6	令和2年度実施 令和3年度公立学校教員採用選考試験の実施状況	14
V	令和2年度の教育関係施策の取組実績	
1	令和2年度の主な取組みについて	17
2	主要施策成果報告	18
VI	有識者からの意見	33

I はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下「地教行法」という。）に基づき、平成20年度から、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理および執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しています。

[参 考]

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（抜粋）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

本報告書「令和2年度 福井県教育委員会の事務の管理および執行の状況の点検・評価報告書」（以下「点検・評価報告書」という。）は、地教行法の規定に基づき、より効果的な教育行政の推進と県民の皆様に対する説明責任を果たすため、福井県教育振興基本計画に掲げた施策の実施結果を示すとともに、教育委員会の各種活動状況について点検・評価した結果を取りまとめたものです。

有識者の方に内容のご確認をいただき、その意見を併せて掲載しています。

本報告書により県民の皆様から、県の教育行政についてのご意見やご要望をいただき、今後の新たな教育関連施策に活かしていきたいと考えています。

Ⅱ 点検・評価について

1 対象期間

令和2年度（令和2年4月～令和3年3月）

2 点検・評価方法

(1) 点検・評価報告書の作成

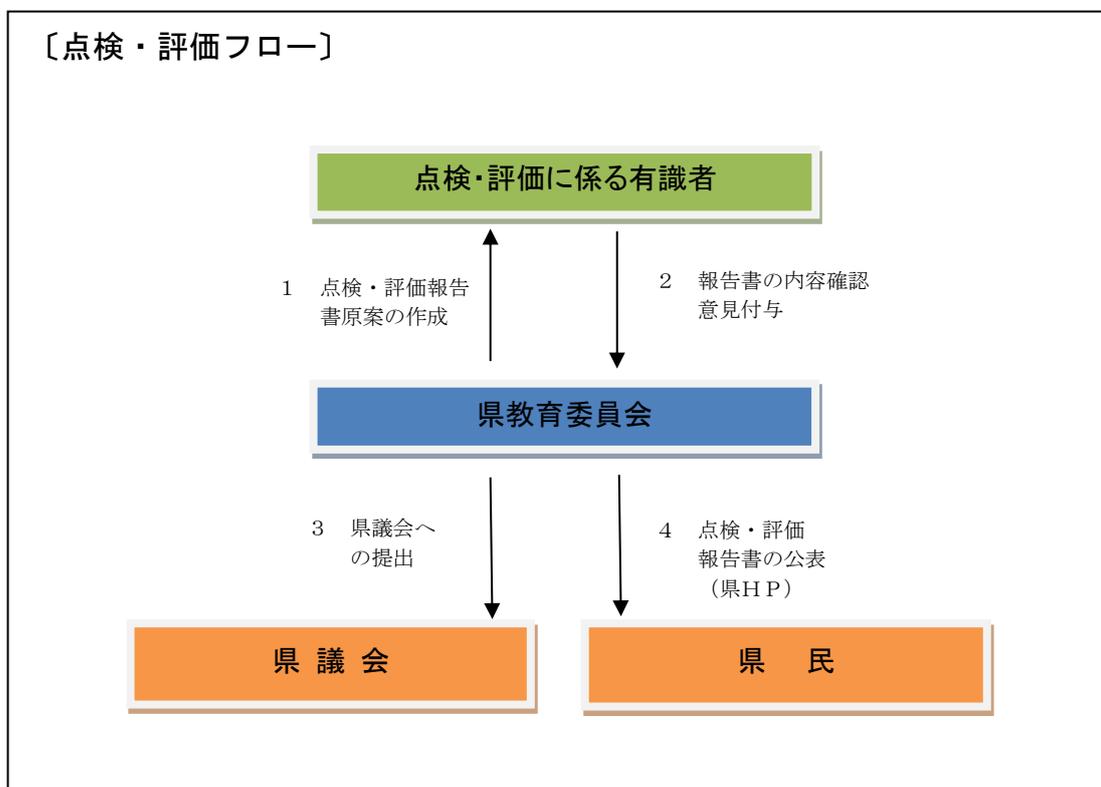
- ・ 教育委員会において点検・評価報告書案を作成

(2) 点検・評価報告書の確認、審査

- ・ 有識者による点検・評価報告書案の内容の確認および審査

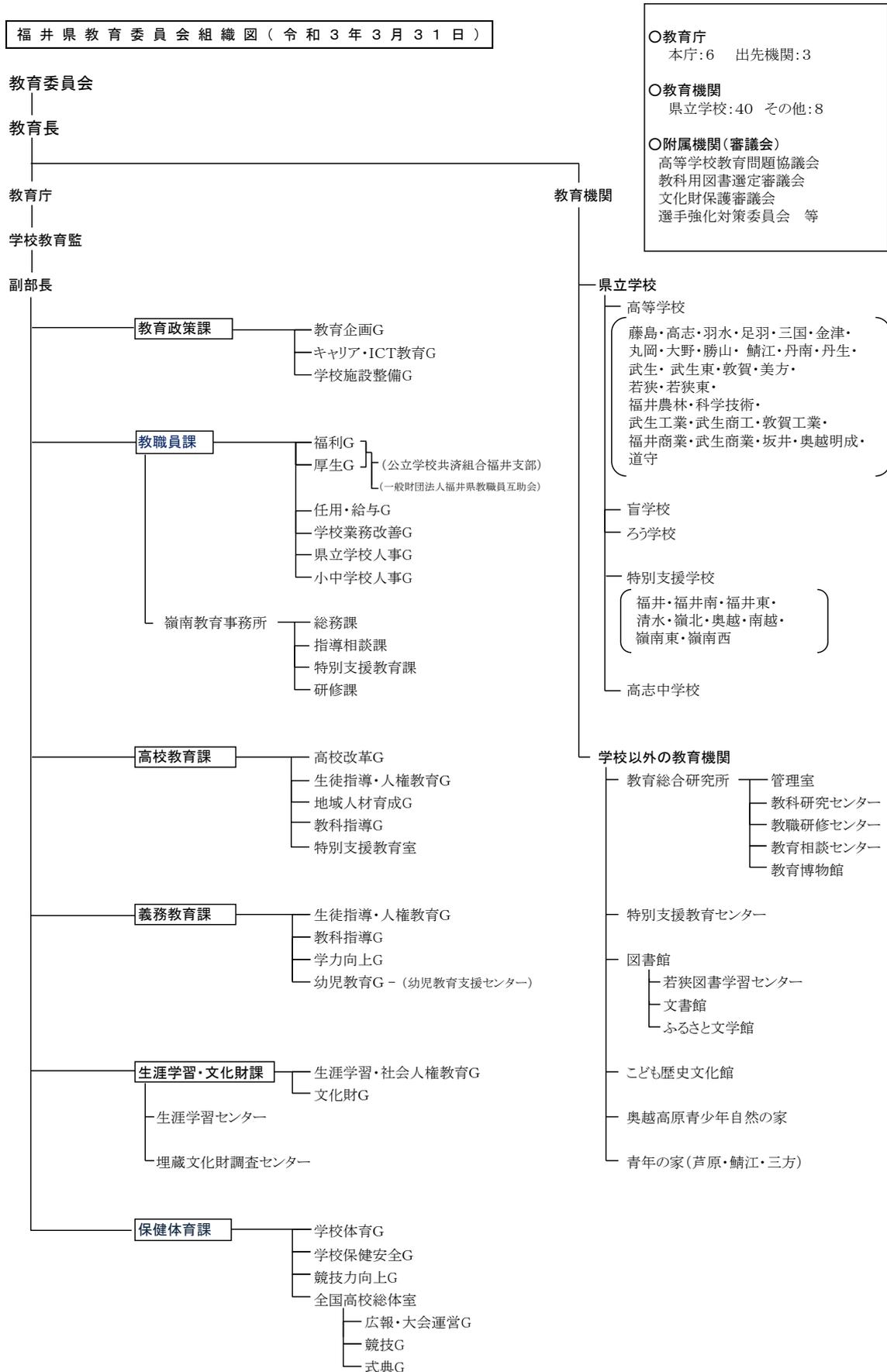
(3) 点検・評価結果の公表

- ・ 点検・評価報告書を県議会に提出するとともに、県のホームページにおいて公表



Ⅲ 組織および決算

1 組織



2 課別決算額調

(一般会計)

(1) 歳入

(単位：千円、%)

課名等	予算現額A	調定額B	収入済額C	(不納欠損額) 収入未済額	C/A	C/B
教育政策課	1,633,586	1,277,426	1,277,426	0	78.2	100.0
教職員課	14,931,014	14,854,112	14,854,036	76	99.5	100.0
高校教育課	1,269,879	1,121,582	1,099,564	22,018	86.6	98.0
義務教育課	238,131	194,071	194,071	0	81.5	100.0
生涯学習・文化財課	144,869	143,441	143,441	0	99.0	100.0
保健体育課	111,735	114,902	114,902	0	102.8	100.0
計	18,329,214	17,705,534	17,683,440	22,094	96.5	99.9

(2) 歳出

(単位：千円、%)

課名等	予算現額A	支出済額B	翌年度繰越額C	不用額	B/A
教育政策課	9,389,790	8,185,223	874,616	329,951	87.2
教職員課	70,231,066	69,786,457	32,519	412,090	99.4
高校教育課	1,505,552	1,283,033	92,732	129,787	85.2
義務教育課	875,465	784,030	44,052	47,383	89.6
生涯学習・文化財課	971,733	914,449	6,444	50,840	94.1
保健体育課	882,569	756,593	21,048	104,928	85.7
計	83,856,175	81,709,785	1,071,411	1,074,979	97.4

※ 計で四捨五入になるよう端数調整

IV 令和2年度福井県教育委員会の活動状況

1 教育委員会の会議開催等の状況

(1) 福井県教育委員会委員

(令和2年4月1日～令和3年1月9日)

	氏名	職業
教育長	豊北欽一	
委員（教育長職務代理者）	西野里佳	元PTA役員
委員	南部隆保	会社役員
委員	原公樹	僧侶
委員	山本直子	法人役員
委員	森下典子	元教員

(令和3年1月10日～令和3年3月31日)

	氏名	職業
教育長	豊北欽一	
委員（教育長職務代理者）	南部隆保	会社役員
委員	原公樹	僧侶
委員	山本直子	法人役員
委員	森下典子	元教員
委員	横井康孝	会社役員

(2) 教育委員会会議の開催状況

- ・開催回数 14回
- ・附議事項 58件

○第1112回（令和2年4月23日（木））

- ・令和3年度福井県公立学校教員採用選考試験について
- ・福井県心身障がい児就学指導委員会委員の委嘱について
- ・いじめ調査専門委員会委員の委嘱について
- ・いじめ問題対策連絡協議会設置要綱の改定について
- ・いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱について
- ・福井県教科用図書選定審議会委員の任命について

○第1113回（令和2年5月27日（水））

- ・ハラスメントの防止に関する指針の改正について
- ・懲戒処分指針の一部改正について
- ・福井県立図書館規則の一部改正について
- ・福井県指定文化財の指定の解除について
- ・福井県社会教育委員の委嘱について
- ・福井県スポーツ推進審議会委員の任命について
- ・福井県教育長の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する条例の一部改正について

○第1114回（令和2年6月11日（木））

- ・令和2年度福井県立高等学校後期編入学者選抜実施要項（定時制の課程および通信制の課程）の制定について
- ・令和2年度使用義務教育諸学校教科用図書採択についての基準、選定資料および採択目録の決定について
- ・福井県立歴史博物館運営協議会委員の任命について

○第1115回（令和2年7月9日（木））

- ・教職員の懲戒処分について

○第1116回（令和2年7月20日（月））

- ・令和3年度福井県立高志中学校入学者選抜に関する実施要項の制定について
- ・福井県指定文化財の指定について
- ・福井県スポーツ推進審議会委員の任命について

○第1117回（令和2年8月28日（金））

- ・令和3年度福井県立高等学校入学者選抜における推薦入学者選抜の実施校について
- ・令和3年度福井県立高等学校入学者選抜における特色選抜の実施校および実施種目について
- ・福井県立恐竜博物館運営協議会委員の任命について
- ・令和3年度使用県立高等学校、県立特別支援学校高等部および県立中学校の教科用図書の採択について
- ・令和元年度教育委員会の事務の管理および執行の状況の点検・評価報告書について
- ・教育財産の取得について
- ・教職員の懲戒処分について

○第1118回（令和2年9月25日（金））

- ・令和2年度教育功労者表彰の被表彰者の決定について
- ・令和3年度福井県公立学校教員採用選考試験の採用内定者の決定について
- ・令和2年10月5日付け人事異動について

○第1119回（令和2年10月27日（火））

- ・令和3年度福井県立学校入学者募集定員について
- ・令和3年度福井県立高等学校入学者選抜実施要項ならびに福井県立特別支援学校の幼稚部および高等部の入学者選考実施要項の制定について
- ・福井県教育庁および教育機関に勤務する職員の服務に関する規程の一部改正について
- ・教職員の懲戒処分について

○第1120回（令和2年11月19日（木））

- ・福井県立若狭歴史博物館運営協議会委員の任命について
- ・令和3年度福井県公立学校校長・教頭任用選考試験の合格者の決定について
- ・令和3年度教職員人事異動方針について
- ・福井県教育長の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する条例の一部改正について
- ・性別記載欄の見直しに伴う関係規則等の改正について

○第1121回（令和2年12月23日（水））

- ・福井県教育委員会行政組織規則および福井県立学校の管理運営に関する規則の一部改正について
- ・令和2年度福井県学校保健・学校安全・学校給食表彰被表彰者の決定について

○第1122回（令和3年1月27日（水））

- ・授業名人の任命について
- ・再任用教職員の採用内定者の決定について
- ・令和2年度福井県立学校寄宿舎指導員・実習助手採用試験の採用内定者の決定について
- ・南部陽一郎記念ふくいサイエンス賞受賞者の決定について
- ・福井県選手強化対策委員会委員の委嘱について

○第1123回（令和3年2月9日（火））

- ・福井県立学校職員定数条例の一部改正について
- ・市町立学校県費負担教職員定数条例の一部改正について
- ・令和2年度ふくい優秀教職員表彰被表彰者の決定について
- ・福井フューチャーマイスタートップ賞受賞者の決定について

○第1124回（令和3年3月4日（木））

- ・令和3年度公立小中学校校長・教頭および県立学校校長・教頭の人事異動について

○第1125回（令和3年3月22日（月））

- ・押印の見直しに伴う関係規則等の改正について
- ・福井県立図書館規則の一部改正について
- ・次世代育成対策推進および女性職員の活躍の推進に関する特定事業主行動計画について
- ・ハラスメントの防止に関する指針の一部改正について
- ・懲戒処分の指針の一部改正について
- ・令和3年4月1日付け教育庁および学校以外の教育機関の管理職の人事異動について
- ・令和3年4月1日付け機構改革に伴う福井県教育委員会行政組織規則の一部改正について

2 教育委員の活動状況

時 期	活 動 内 容 (参加行事等)
令和2年 4月23日	第1112回教育委員会
5月27日	第1113回教育委員会
6月11日	第1114回教育委員会
7月 9日	第1115回教育委員会
7月20日	第1116回教育委員会
8月 4日、5日、7日	教員採用試験面接
8月28日	第1117回教育委員会
9月25日	第1118回教育委員会
10月26日、28日、29日、30日	管理職任用選考試験面接
10月27日	令和2年度第1回福井県総合教育会議
10月27日	第1119回教育委員会
11月 7日	道守高校創立50周年記念式典
11月 9日	学校視察 (大野高校)
11月10日	学校視察 (小浜美郷小学校)
11月12日	教育功労者表彰式
11月13日	学校視察 (成和中学校)
11月14日	福井県中学生ビブリオバトル
11月15日	福井県高校生ビブリオバトル
11月16日	学校訪問 (足羽高校)
11月17日	学校訪問 (武生工業高校、武生商業高校)
11月19日	第1120回教育委員会
11月20日	中学校長対象講演会
11月25日	学校訪問 (敦賀工業高校)
11月30日	学校訪問 (武生第一中学校)
12月 1日	学校訪問 (三国高校)
12月23日	第1121回教育委員会
令和3年 1月21日	辞令交付式
1月27日	第1122回教育委員会
2月 3日	令和2年度都道府県・指定都市教育委員研究協議会
2月 6日	福井ふるさと教育フェスタ
2月 9日	第1123回教育委員会
2月13日	ふくい産業教育フェア
2月19日	令和2年度ふくい優秀教職員表彰式 授業名人任命式
3月 4日	第1124回教育委員会
3月22日	第1125回教育委員会
3月31日	永年勤続退職教職員辞令交付式・表彰式

3 審議会等審議状況

名 称	委員数	会議開催数	件 名	種 別	年月日
福井県心身障がい児就学指導委員会	20	3	県立特別支援学校の該当児判断について	審議	2. 6. 3 2. 10. 23 2. 12. 18
福井県教科用図書選定審議会	19	3	義務教育諸学校で使用する教科用図書について	審議・答申	31. 4. 26 元. 5. 31 元. 6. 11
福井県文化財保護審議会	15	1	県指定文化財について 令和2年度の福井県指定文化財に係る調査計画について	審議・答申・協議	2.7.3
福井県選手強化対策委員会	13	1	選手強化に関する今後の目標について 目標を達成するための中長期的な強化方針について	審議	2.11.25

4 教育委員会関係の許認可の状況

(1) 教育職員免許状の授与等（令和2年度）

区分	専修免許状	1種免許状	2種免許状	特別免許状	臨時免許状	合 計
小学校	39	117	19	0	37	212
中学校	50	128	8	1	7	194
高等学校	59	215	0	1	54	329
特別支援学校	0	30	38	0	9	77
幼稚園	3	88	124	0	6	221
養護教員	0	28	6	0	8	42
栄養教員	1	6	0	0	0	7
自立教科等	0	0	0	0	0	0
合 計	152	612	195	2	121	1082

(2) 文化財の指定状況

令和2年度においては、新たに、国重要文化財に1件指定、国選定文化財に3件選定、国登録文化財に33件登録、県指定文化財に10件指定されました。

<指定文化財の現状>

令和3年3月31日現在

区 分	国指定		国選定	国選択	国登録	県指定	
	国 宝 特 別	重 文 国指定					
有 形 文化財	建造物	2	28			226	28
	絵 画		14				78
	彫 刻		35				82
	工芸品	3	8			1	30
	書跡・典籍・古文書	1	15				21
	考古資料		5				16
	歴史資料		3				7
	計	6	108			227	262
無 形 文化財	芸 能						
	工芸技術		2				4
	計		2				4
民 俗 文化財	有形民俗文化財		1			1	10
	無形民俗文化財		5		12		65
	計		6		12	1	75
史跡・名勝・ 天然記念物	史 跡	1	24				29
	名 勝	1	14			2	7
	天然記念物	4	17			1	31
	名勝天然記念物		1				
	計	6	56			3	67
文化的景観				3			
重要伝統的建造物群保存地区				2			
選定保存技術							
合 計		12	172	5	12	231	408
		184					

(3) 銃砲刀剣類の登録状況

銃砲刀剣類所持等取締法に基づき、審査会を開催し、登録証の交付等をおこなってまいりました。

登録証交付	52	件
登録証再交付	16	件
所有者変更	232	件

(4) 教育委員会所管の公益法人

23法人（令和3年3月31日現在）

（公益財団法人12 公益社団法人2 一般財団法人8 一般社団法人1）

5 令和3年度県立学校入学者選抜学力検査結果の状況

(1) 県立高等学校

課程別の合格者数は、表1のとおりです。また、全日制の第1次学力検査合格者3,533人のうち、帰国子女受験者を除く3,531人（前年度3,591人）に関する教科別の平均点は、表2のとおりです。

表1 課程別の合格者数

※（ ）内は前年度実績

	全 日 制	定 時 制	合 計
推薦選抜によるもの	509(515)		509(515)
特色選抜によるもの	303(238)		303(238)
連携型中高一貫教育校入学者選抜によるもの	94(68)		94(68)
第1次学力検査によるもの	3,533(3,592)	154(163)	3,687(3,755)
第2次学力検査によるもの	29(11)	22(28)	51(39)
外国人等特別選抜によるもの	10(3)		10(3)
計	4,478(4,424)	176(191)	4,654(4,615)
充足率	95.1%(92.5%)	50.3%(54.6%)	92.0%(89.9%)

<参考>

募集定員	4,707(4,784)	350(350)	5,057(5,134)
------	--------------	----------	--------------

表 2 教科別の平均点

	選択問題 A	選択問題 B
英 語	42.4(43.3)	56.4(71.8)
数 学	49.2(46.0)	49.2(59.0)
	共通	
国 語	61.2(60.4)	
社 会	56.6(54.8)	
理 科	52.5(51.7)	
総 点	208.0(206.5)	303.0 (319.7)

※英語および数学は大問 4～6 のうち 1～2 問を次の 2 種類の選択問題として実施
 A：基礎力を問う設問の割合が多い問題（選択した合格者 1,188 人）
 B：記述・論述型の設問の割合が多い問題（選択した合格者 2,343 人）

(2) 県立中学校

平成 27 年度に開学した高志中学校の入学者選抜の受験の状況は、表 3 のとおりです。また、適性検査等の結果は表 4 のとおりです。

表 3 受験の状況

募集定員	出願者数	受験者数	合格者数
90	329	327	90

表 4 適性検査等の結果

	配 点	平均点
適性検査 I	100	53.7
適性検査 II	100	34.5
適性検査 III	100	29.0
面 接	50	41.1
合 計	350	158.3

6 令和2年度実施 令和3年度公立学校教員採用選考試験の実施状況

第1次選考

試験期日および場所

期 日 等	場 所
令和2年7月11日(土) 一般・教職、教科等専門(小学校、中学技術、高校各科、養護教諭、栄養教諭)	福井県立羽水高等学校 (福井市羽水1丁目302) 福井市木田小学校【中高音楽実技】 (福井市木田1-1360)
令和2年7月12日(日) 教科等専門(中高一括、特別支援学校)	

第2次選考 および 特別選考

試験期日および場所

期 日 等	場 所
令和2年8月3日(月) 【第2次選考】適性検査、小論文 【特別選考】 令和3年度大学院特別選考 適性検査、個人面接 スポーツ・芸術特別選考 適性検査、小論文、個人面接 教育エキスパート特別選考 個人面接等 盲学校保健医療科担当教員特別選考 教科等専門、個人面接	【第2次選考 および 特別選考】 福井県立福井商業高等学校 (福井市乾徳4丁目8-19) 【第2次選考】 福井県教育総合研究所 (坂井市春江町江留上緑8-1)
令和2年8月4日(火)～7日(金) 【第2次選考】個人面接	

《 教員採用試験の改善について 》

優秀な人材の確保および選考過程の透明性・公平性を図るため、次のような改善を行いました。

○ 優秀な人材の確保

＜平成18年度から実施＞

- ・受験資格を60歳未満に拡大
- ・講師経験者の1次選考免除を導入

＜平成19年度から実施＞

- ・2次選考において、場面指導を導入
- ・国際貢献活動経験者の1次選考免除を導入

<平成20年度から実施>

- ・大学院修士課程修了時の特別選考を導入

<平成21年度から実施>

- ・面接の重視（配点割合の引き上げ）
- ・「音楽」「美術」を含む全教科での筆記試験の実施

<平成23年度から実施>

- ・スポーツ特別選考の実施

<平成25年度から実施>

- ・従来の一括募集を校種・教科別の募集に変更
- ・2つの校種・教科を併願できるように変更
- ・校種・教科の専門試験を1次選考で実施（全ての受験者が専門試験を受験）
- ・2次選考の「場面指導」を「集団討論」に変更
- ・面接の重視（配点割合の引き上げ）

<平成27年度から実施>

- ・特別選考の導入①スポーツ・芸術特別選考
②教育エキスパート特別選考
③グローバル教育特別選考

<平成28年度から実施>

- ・特別選考の見直し①スポーツ・芸術特別選考
②教育エキスパート特別選考
 専門教育分野
 英語教育分野

<令和元年度から実施>

- ・障がい者特別選考の受験資格拡大
- ・介護を理由に退職した教員の再採用を実施

<令和2年度から実施>

- ・第1次選考全部免除制度を導入
（他都道府県国公立学校正規勤務経験者または県内国公立学校勤務講師対象）
- ・第1次選考の一般教養と教職専門の筆記試験を一般・教職に一本化
- ・第2次選考の「集団討論」を廃し「個人面接」を2回に変更

○ 受験者に対する情報の提供

<平成20年度から実施>

- ・2次選考の不合格者に対して、成績をA、B、Cの三段階で通知
- ・試験問題の持ち帰りと、解答例・配点の公表（自己採点可能）の実施
- ・個人情報開示請求に基づき、以下の情報を開示
 1次選考および2次選考における筆記試験、実技試験、作文および面接の
 点数
- ・筆記試験、実技試験、作文および面接の配点ならびに評価項目など選考基準をホームページで公開
- ・1次選考合格者および最終合格者について、合否結果通知の発送に併せて、ホー

ムページでも受験番号を公表

<平成21年度から実施>

- ・判定基準をホームページで事前発表
- ・解答例および設問別配点をホームページに掲載（自己採点可能）
- ・不合格者のうち希望者に、筆記試験、実技試験、作文および面接の各点数ならびに合計点数を通知

<平成26年度から実施>

- ・不合格者全員に筆記試験、実技試験、作文および面接の各点数ならびに合計点数を通知

○ 選考過程等の改善

<平成20年度から実施>

- ・改ざん等の不正防止のため、担当部署以外の行政職員による答案や面接時の個票と選考資料との突き合わせ点検を実施
- ・民間有識者による選考手順や選考内容の点検および抽出データによる答案等の元データと選考資料データの突合を実施

<平成21年度から実施>

- ・実技試験において、受験番号にかわり整理番号を使用

<平成24年度から実施>

- ・電子申請による受付を導入

<平成26年度から実施>

- ・一般教養試験において、マークシート方式を導入

<平成27年度から実施>

- ・小学校筆記試験において、外国語のリスニングテストを導入
- ・一般教養に加え、教職専門の試験において、マークシート方式を導入

<令和2年度から実施>

- ・小学校の試験において、外国語リスニングおよび実技試験を廃止
- ・外国語資格における加点対象を拡大

V 令和2年度の教育関係施策の取組実績

1 令和2年度の主な取組みについて

- すべての県立中学校・高校に生徒1人1台のタブレット端末および高速・大容量の校内通信ネットワークを整備しました。
- 地域の高校から難関大学を目指す生徒を対象に大学進学サポートセンターを設置し、登録者138人に通信型補習や集合型補習等を実施しました。
- トップアスリートを目指す小学6年生を対象に、運動能力の向上を図るトレーニング方法や本格的な競技体験などのプログラムを提供する「ふくいジュニアアスリートアカデミー」を開催し、36名が参加しました。
- 生徒の心のケアを行うため、若年層が相談しやすいSNS等を活用した相談窓口を夏季休業明け前後に加え、8月以降の土日祝日にも開設しました。
- 外国人児童生徒の学校生活への早期適応等のため、小中学校に対して、日本語支援員の配置や多言語翻訳機等の整備を行いました。
- 県独自のビジネスアイデアコンテストを開催し、14校から144件のアイデアの応募があり、上位6件による本選をふくい産業教育フェアにて実施しました。
- 県立学校5校において大規模改修工事、6校において普通教室の空調設備更新、29校においてトイレ洋式化工事を実施し、時代に即した学習環境を整えました。

2 主要施策成果報告

(1) 教育振興基本計画（令和2年3月策定）に基づく施策の実施結果

方針1：学ぶ喜びを知り、自ら進んで学ぶ意欲と力の育成

- ・すべての県立学校に生徒1人1台のタブレット端末および高速・大容量の校内通信ネットワークを整備
- ・県立高校の拠点校において、実践的なタブレット端末の公開授業および県外の専門家による先進事例を紹介する教員研修を実施
- ・児童生徒が自ら活動する授業例を盛り込んだ「引き出す・楽しむ教育」事例集を作成
- ・地域の高校で難関大学を目指す生徒を対象に大学進学サポートセンターを設置し、登録者138人に通信型補習や集合型補習等を実施
- ・自学自習環境の充実のため、金津、丸岡、大野、鯖江の各高校において夜間まで自習室を開放
- ・文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」に、新たに三国高校、科学技術高校が指定され、学校独自の設定教科（三国地域学、産業技術探究）など、特色ある教育活動を実施

方針2：適性や興味関心に応じた文化芸術、スポーツ活動の促進

- ・小学校、特別支援学校（小学部）合わせて71校3,769名に、越前焼に使われる越前荒土を配付し、図画工作科の授業で活用
- ・「スポーツ能力測定会」、「福井大学との連携による特別な測定会」を開催し、小・中学生446名に自分の才能や可能性を発見する機会を提供
- ・運動能力が高くトップアスリートを目指す6年生36名を対象に「ふくいジュニアアスリートアカデミー」を開催し、専門的なトレーニング方法や本格的な競技体験などのプログラムを提供
- ・「スポジョブふくい」により、国体等で活躍が期待される有力選手21名について、令和3年度春採用のUIターン就職を支援

方針3：豊かな心、健やかな体の育成

- ・子どもの成長段階に応じた推奨図書を紹介する3種類の小冊子を作成・配布（幼児編「絵本のある子育て」、小学生編「本のあるまいにち」、中高生編「コレ、ヨモ～あなたの扉を開ける72冊～」）
- ・「第7回福井県高校生ビブリオバトル」に加え、「福井県中学生ビブリオバトル」を初めて開催
- ・県内指導者に、地域クラブにおける指導意向等に関するアンケート調査を実施すると

ともに、休日の部活動の地域移行に関する実践研究の実施に向けて対象地域や団体について検討

- ・令和3年度全国高等学校総合体育大会の開催に向けて、県内高校生によるカウントダウンイベントや各種イベントでの大会PR活動を行い、機運を醸成
- ・学習指導要領の改訂に基づき、本県独自の食育教材「ふくいこども食育チャレンジ」第一次改訂版を作成するとともに、食を探究するための小中共同問題・発展問題を追加

方針4：国際的な視野に立ち、自らの考えを発信する力の育成

- ・職業系高校4校において、話せる英語の習得を目指し、フィリピンの大学生とオンライン英会話を実施
- ・小学校への外国語の教科担任制導入のため、新たに英語免許所有者を19校に配置
- ・中学3年生の外部検定試験の受験料を全額補助し、その結果分析を行い、授業改善に活用

方針5：特性や心情に配慮し、誰もが安心して学べる教育環境の整備

- ・特別支援学校6校の生徒が、8か所の農業法人等において農業体験実習を実施
- ・「学校における医療的ケア実施ガイドライン」を策定し、特別支援学校および市町教育委員会に周知
- ・生徒の心のケアを行うため、若年層が相談しやすいSNS等を活用した相談窓口を夏季休業明け前後に加え、8月以降の土日祝日に開設
- ・福井弁護士会と協定を締結し、学校からの法的相談に対し、スクールロイヤーが助言する事業を実施
- ・外国人児童生徒の学校生活への早期適応等のため、越前市と鯖江市の小中学校に対して、日本語支援員の配置や多言語翻訳機の整備を支援
- ・外国人生徒の多い足羽高校および武生高校定時制に、日常会話を補助するコミュニケーションサポーターを配置
- ・足羽高校および武生商工高校において外国人生徒等特別選抜を実施し、10名が合格
- ・教育総合研究所のサイエンスラボにおいて、学校では困難な実験の動画（43件）を小中高校に初めて配信し、理科の学習に活用

方針6：ふるさとを愛する心と社会に貢献する志の育成

- ・「福井ふるさと教育フェスタ」を開催し、ふるさと学習の成果等のステージ発表（小学校8校、伝統芸能団体2団体）に加え、地域と連携して生産した食品等の販売やポスター発表などを実施
- ・嶺南嶺北体験・探究活動推進事業について、小・中学校37クラス、放課後子どもクラ

- ブ4クラブの970名が体験活動を実施し、修学旅行等を含め県内小中学生12,459名が嶺南・嶺北を越えて交流
- ・高校生が興味関心のある業界で活躍する社会人を講師とする「キャリア教育セミナー」を開催し、学習支援システムにより全校で動画を共有
- ・県独自のビジネスアイデアコンテストを開催し、14校から144件のアイデアの応募があり、上位6件による本選をふくい産業教育フェアにて実施
- ・埋蔵文化財発掘現場での地元小学生への出前授業や、地域住民への文化財についての出前講座を計9回開催
- ・文化財ホームページをリニューアル（令和3年4月から公開）し、文化財所在マップ、検索機能の追加や、子ども向けの文化財を紹介

方針7：生涯にわたる学びの支援

- ・福井が誇る日本遺産や自然環境など、ふるさと福井の魅力的な地域資源について現地を訪ね、体験を通して学ぶ「ふるさと探究講座」を開催
- ・福井市立郷土歴史博物館「越葵文庫」、福井市立図書館「越国文庫」を文書館HPの「デジタルアーカイブ福井」で集約公開
- ・群馬県立土屋文明記念文学館および日本近代文学館（東京都）の2つの県外文学館から資料提供を受け展示

方針8：新たな時代を見据えた教育環境の整備

- ・時間外在校等時間月80時間以上の教職員に対し、管理職が面談による指導・助言を行うなど働き方改革を進め、該当する教職員が昨年度6.1%から4.4%（R2.4月～R3.3月）に減少
- ・教員志望者WEBセミナーをオンラインで実施し、県内4大学に加え、関東や関西の県外32大学から参加
- ・小学校教員の実技試験を廃止し、志願者が53名増加
- ・県外の現職教員や勤務経験者等の1次選考を免除し、県外正規経験者の受験者数が昨年比1.7倍に増加
- ・ポータルサイト「ふくい子どもチャレンジ倶楽部」を開設し、コンクールの募集情報や実験動画等を掲載
- ・県立学校7校において大規模改修工事を行うとともに、6校において普通教室の空調設備更新、全校において特別教室の冷房機器整備を実施
- ・県立学校29校においてトイレ洋式化工事を実施

(2) 主要事業の実施成果

I 学びを伸ばす（人材力） 1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成 （1）次世代につなぐ美しい県立学校施設整備事業 教育政策課				
[事業目的]	県立学校の長寿命化を進め、時代に即した学習環境を備える学校を整備するため、計画的にリノベーション工事等を実施する。			
[事業内容]	建築後 35 年以上経過した県立学校施設を対象に、外壁や内装、各種設備など施設全体を改修			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	1,828,661	170,743	1,656,452	1,466
[事業の目標 および効果]	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校 3 件、特別支援学校 2 件の大規模改修工事を実施した。 ・高等学校 4 件、特別支援学校 1 件について、設計を実施した。 ・6 校 134 教室の空調設備更新工事を実施した。 ・29 校 271 箇所のトイレ洋式化工事を実施した。 			
[事業評価]	大規模改修工事を実施し、屋上防水や外壁改修など長寿命化を進めた。また、断熱性の確保による省エネ化を進める改修を行うなど時代に即した学習環境を整える学校を整備するとともに、空調設備更新工事やトイレ洋式化工事を実施した。			

I 学びを伸ばす（人材力） 1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成 （2）新たな部活動指導体制推進事業 教職員課				
[事業目的]	教員の負担軽減を図るため、外部人材を活用した部活動指導体制への支援を実施する。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> ・教員に代わって単独で部活動の指導や引率ができる部活動指導員等を中学校、高等学校に配置 ・部活動休養日の拡大や共同管理体制の導入を推進し、部活動指導を改善 			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	37,917	8,399		29,518
[事業の目標 および効果]		内 容	目 標	実 績
	活動 指標	部活動指導員の配置校数	101 校	68 校
	成果 指標	時間外在校時間月 80 時間以上の職員数	0 人	延べ 3,744 人
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> ・退職教員等の部活動指導員を中学校 45 校、高等学校 23 校に配置し、教員の負担軽減および部活動指導の改善を図ることができた。 ・今後、外部人材の増員により、部活動指導体制への支援を強化していく。 			

I 学びを伸ばす（人材力）					
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成					
(3) 引き出す教育・楽しむ教育実践事業				教職員課	
[事業目的]	ICT等の先端技術を活用した学びを楽しむ授業づくりや子どもの興味・関心を引き学習意欲の向上に繋げるクラブ活動の実践に向けた研究に取り組む教員グループの活動を支援するとともに、自主的な研究活動を支援し、教員の指導力向上を図る。				
[事業内容]	①先端技術活用研究への支援 ②小学校クラブ活動への支援 ③若手教員学習会への支援 ④授業実践研究への支援 ⑤教職大学院派遣教員への支援				
[決算額] (単位：千円)		決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	①	5,692		5,692	
	②	1,703		1,703	
	③	3,537		3,537	
	④	2,443		2,443	
	⑤	2,115		2,115	
	計	15,490		15,490	
[事業の目標 および効果]		内 容	目 標	実 績	
	活動 指標	交付決定件数	145 件	136 件	
	成果 指標	学習支援システム への掲載数	25 本	25 本	
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> ・先端技術活用研究 19 グループ、小学校クラブ活動 37 グループなど、136 グループの自主的な研究グループの活動を支援した。 ・教職大学院へ 15 人の教員を派遣した。 				

I 学びを伸ばす（人材力）					
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成					
(4) 地域との協働による高等学校教育改革推進事業				高校教育課	
[事業目的]	県立高校が自治体、高等教育機関、産業界等と協働して、地域の課題を発見・解決する取組を推進することで、将来地域を支えるリーダーとなる人材を育成するとともに、地域振興の核としての高校の機能強化を図る。				
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> ・地元企業から講師を招聘し、地元の伝統文化や産業を学ぶ授業を実施 ・地域団体と協働し、空き家の活用策など地域活性化プランを地域に提案 				
[決算額] (単位：千円)		決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
		9,621	9,621		
[事業の目標 および効果]		内 容	目 標	実 績	
	活動 指標	各校における地域貢献活 動のための協議会開催数	4 回	8 回	
	成果 指標	高校生による地域貢献活 動回数	9 回	24 回	
[事業評価]	地域団体と協働した活動の実施により、高校生による地域振興や高校の機能強化が図られている。				

I 学びを伸ばす（人材力）					
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成					
(5) ⑧生徒の進学希望実現支援事業				高校教育課	
[事業目的]	生徒の特性・興味・関心にあった進路選択を行えるよう各学年段階において支援を行うほか、生徒の進学希望を実現するために、高校における進学指導体制や生徒への受験対策を強化する。				
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> ・大学進学者の多い県立高校を対象に、大学進学希望者に対する受験対策を支援 ・1年生のための大学進学セミナーの実施 ・大学入学共通テストプレテストの実施 				
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源	
	5,272			5,272	
[事業の目標 および効果]	活動 指標	内 容 大学進学セ ミナー参加者数	目 標 700 人	実 績 —	新型コロナ感染症拡大防止のため 中止
	成果 指標	地元国公立大 学合格者率	24.0%	26.2%	
[事業評価]	各学校の授業進度や生徒の進学希望に応じた受験対策の支援により、より多くの生徒の進路志望実現が図られている。				

I 学びを伸ばす（人材力）					
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成					
(6) 英語力向上事業				高校教育課	
[事業目的]	教員の英語指導力向上と授業改善を図るとともに、国際社会で求められる英語力について、生徒が自身の英語力を把握するための一助として、外部検定試験を活用し、英語学習に対する意欲向上を図る。				
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> ・高校1年生に対し、福井の発信等をテーマとしたオリジナル教材を配布 ・民間事業者による外部検定試験の受験料を支援 ・福井県英語ディベート大会を開催 				
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源	
	15,417			15,417	
[事業の目標 および効果]	活動 指標	内 容 外部検定受験率	目 標 57.7%	実 績 56.6%	
	成果 指標	高校卒業時に求められ る英語力達成率	60%	—	2年度は文部科学省調査中止
[事業評価]	オリジナル教材の配布・活用や英語ディベート大会の実施により、生徒の英語学習に対する意欲向上や英語力の向上が図られている。				

I 学びを伸ばす（人材力）				
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成				
(7) ⑧オンライン学習環境整備事業				高校教育課
[事業目的]	新型コロナウイルス感染症による臨時休校に備え、全ての生徒が十分な環境でオンライン学習に取り組めるよう全学年で1人1台タブレット端末を整備する。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> 全ての県立高校で1人1台タブレット端末を整備 家庭にWi-Fi環境が整っていない生徒へのLTE通信環境を整備 			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	773,069	773,069		
[事業の目標 および効果]	全ての県立高校において1人1台タブレット端末が使用できるよう13,438台を整備			
[事業評価]	全ての県立高校において1人1台タブレット端末およびルーターが整備され、家庭におけるオンライン学習やICT教材の活用に必要な環境が整った。			

I 学びを伸ばす（人材力）				
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成				
(8) ⑧特別支援教育に関する支援体制充実事業				高校教育課
[事業目的]	特別な支援が必要な子どもに対する、市町教育委員会を中心とした地域における支援体制を強化するとともに、小中学校、高校の教職員の特別支援教育に関する専門性を向上させ、発達障がい等の理解や移行支援の充実を図る。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> 支援体制専門員を配置し、地域における支援体制を強化 通級指導や移行支援に関する研修を実施 発達障がいに関する保護者の理解を促進するため、リーフレットを作成・配布 			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	550	550		
[事業の目標 および効果]		内 容	目 標	実 績
	活動 指標	連絡協議会の開催数	3回	3回
	成果 指標	特別支援教育に関する指導・助言可能な市町教委担当者数	2人	3人
[事業評価]	支援体制専門員による指導・助言や特別支援教育に関する研修の実施により、地域における支援体制を強化することができた。			

I 学びを伸ばす（人材力）					
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成					
(9) ⑨農業体験等による特別支援学校キャリア教育推進事業			高校教育課		
[事業目的]	農業体験など地域との連携・協働により、特別支援学校児童生徒の就労・学習意欲や職業スキルを向上させるなどキャリア教育を推進する。				
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> ・農業法人等による技術指導や校外での農業体験実習を実施 ・生徒が作業学習等で培った力を認定する「特別支援学校技能検定」を実施 				
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源	
	135			135	
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績	
	活動 指標	農業体験活動参加生徒	100人	80人	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、縮小して実施
	成果 指標	農業体験実習受入企業等数	6社	7社	
[事業評価]	農業体験実習や技能検定の実施により、特別支援学校生徒の技能向上や就労の促進が図られている。				

I 学びを伸ばす（人材力）					
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成					
(10) 福井フューチャーマイスター事業			高校教育課		
[事業目的]	県内職業系高校生の資格取得等に対する意欲向上を図り、地元企業に就職して活躍するためのスキルアップを促進するため、高校生の専門資格取得を支援する。				
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の資格取得や企業実習等の実績に基づき、認定を行う福井フューチャーマイスター制度を実施 ・専門資格の取得を支援（補助率 2/3 【一般資格は 1/2】） 				
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源	
	7,367	229		7,138	
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績	
	活動 指標	専門資格取得支援者数	2,000人	1,408人	
	成果 指標	福井フューチャーマイスター認定率	86.0%	86.7%	
[事業評価]	地元企業の即戦力となる人材を育成するため、職業系高校生の資格取得を支援するとともに、福井フューチャーマイスターとして認定することにより、スキルアップが図られている。				

I 学びを伸ばす（人材力）				
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成				
(11) ⑧高校生起業家育成プロジェクト事業			高校教育課	
[事業目的]	県立高校生を対象に就職、進学以外の進路選択の一つとして「起業」に関する知見に触れる機会を設け、チャレンジ精神や探究心等の「起業家精神」と情報収集・分析力、判断力、コミュニケーション力等の「起業家的資質能力」を育成する。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> ・起業家による講演会を実施 ・県独自のビジネスアイデアコンテストを開催 			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	1,038			1,038
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績
	活動 指標	ビジネスアイデアコンテストのエントリー数	100 組	144 組
	成果 指標	ビジネスアイデア本選参加チーム数	5 組	6 組
[事業評価]	起業家による講演会の実施やビジネスアイデアコンテストへの参加により、高校生の起業家精神および起業家的資質能力の育成が図られている。			

I 学びを伸ばす（人材力）				
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成				
(12) 地域と進める体験推進事業			義務教育課	
[事業目的]	児童生徒が地域の人々とともに、自ら企画・提案した体験学習を実施し、ふるさと福井に誇りや愛着を持つ人材を育成する			
[事業内容]	小中学校で「地域コーディネーター」を委嘱し、児童生徒が「地域コーディネーター」や地域の人々とともに行う体験学習やボランティア活動を支援 (1校 20万円を上限 県1/2、市町1/2)			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	11,503			11,503
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績
	活動 指標	地域コーディネーターを配置した小中学校数	114 校	114 校
	成果 指標	地域参画の体験活動を実施した小中学校数	114 校	114 校
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> ・県内全ての小中学校で地域コーディネーターを委嘱し、体験活動やボランティア活動の支援を行い、児童生徒の体験学習などの充実を図った。 ・3年度からは体験学習への支援に加え、CMコンテストやプレゼンテーション大会を実施することで、福井への誇りや愛着を持つ人材の育成を図る。 			

I 学びを伸ばす（人材力）				
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成				
(13) 芸術教育推進事業				義務教育課
[事業目的]	学校教育を通じて、音楽や美術など芸術面における体験活動を充実し、児童生徒の感性や表現力の向上を図る。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校、高校の吹奏楽部に対し演奏家などの派遣や、全国大会に出場するための旅費などを支援 ・小中学校、高校の弦楽奏者に対し、プロ奏者の派遣や合同発表会を開催 			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	17,643			17,643
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績
	活動 指標	吹奏楽講師の 派遣回数	110回	77回
	成果 指標	弦楽器奏者数	220人	177人
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校、高校（14校）に対して大型楽器の整備を実施 ・小中学校、高校の弦楽奏者による合同発表会を開催 			

I 学びを伸ばす（人材力）				
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成				
(14) 外国人児童生徒等支援事業				義務教育課
[事業目的]	日本語指導が必要な児童生徒に対する支援体制を強化し、外国人児童生徒の教育の充実を図る。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人児童生徒等が在籍する小中学校に日本語指導員を配置 ・外国人児童生徒やその保護者との会話に必要な翻訳機などの支援 			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	14,516	7,258		7,258
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績
	活動 指標	連絡協議会の 開催	3回	3回
	成果 指標	日本語指導員 の配置人数	9名	9名
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語指導員を配置することで、外国人児童生徒への教育の充実を図った。 ・翻訳機の整備により、外国人児童生徒やその保護者への対応の円滑化を図った。 ・2年度より越前市に加え、鯖江市でも外国人児童生徒に対する支援を実施。 			

I 学びを伸ばす（人材力）				
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成				
(15) ⑧ふるさと教育フェスタ開催事業				義務教育課
[事業目的]	ふるさと福井に誇りや愛着を持つ人材を育成するため、小中学校で実施するふるさと教育の活動成果や地域の伝統芸能を幅広く県内に発信する「福井ふるさと教育フェスタ」を開催。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> 小学生によるふるさと教育の活動成果のステージ発表 伝統芸能団体による伝統文化のステージ発表 小中学生による物品販売（地域の方と協働で制作したものなど） 小中学生のふるさと学習の成果に関するパネル展示、発表 			
[決算額]	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
(単位：千円)	1,385			1,385
[事業の目標 および効果]		内 容	目 標	実 績
	活動 指標	参加団体数	30 団体	50 団体
	成果 指標	ふるさとへの愛着が高まった児童生徒の割合	40%	90%
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> 小中学生が他校や他の地域における活動を聞くことで、各地域の特色や他の学校の児童生徒の考え方を知る機会となった。 3年度は現在のステージ発表に加え、プレゼンテーション大会の入賞者による発表を実施。 			

I 学びを伸ばす（人材力）				
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成				
(16) ⑧SNS相談事業				義務教育課
[事業目的]	いじめ・不登校の未然防止、早期発見等のため、SNSなどを通じて相談を実施			
[事業内容]	中学・高校生を対象にSNSによる相談窓口を開設し、臨床心理士などの資格を有した相談員による相談を実施。			
[決算額]	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
(単位：千円)	11,180	11,180		
[事業の目標 および効果]		内 容	目 標	実 績
	活動 指標	相談件数	100 件	792 件
	成果 指標	1,000 人あたりの不登校児童生徒数	—	13.3 人
[事業評価]	生徒の心のケアを行うため、若年層が相談しやすいSNS等を活用した相談窓口を夏季休業明け前後に加え、8月以降の土日祝日に開設			

I 学びを伸ばす（人材力）				
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成				
(17) スクールカウンセラー配置事業				義務教育課
[事業目的]	心理の専門的な知識を持つスクールカウンセラーを配置し、いじめ、不登校、暴力行為等の問題行動の未然防止や早期発見、早期解決を図る。			
[事業内容]	教育総合研究所および小中学校にスクールカウンセラー93名を配置 児童生徒等へのカウンセリング、教職員・保護者への助言等を実施 事案に対する学校内連携・支援チームの構築・支援			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	132,126	44,042		88,084
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績
	活動 指標	相談件数	—	37,017件
	成果 指標	1,000人あたりの不 登校児童生徒数	—	13.3人
[事業評価]	相談内容が複雑な案件が増加しており、今後もスクールカウンセラーの増員や研修会の充実など教育相談体制の強化を図る。			

I 学びを伸ばす（人材力）				
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成				
(18) スクールソーシャルワーカー配置事業				義務教育課
[事業目的]	社会福祉等の専門的な知識を持つスクールソーシャルワーカーを配置し、家庭環境、不登校、貧困、虐待等の課題を抱える児童生徒の支援、健全育成を図るため、関係機関と連携し、支援を行う。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> 教育総合研究所および嶺南教育事務所、市町に対し、スクールソーシャルワーカー26名を配置 問題を抱える児童生徒に対する家庭訪問を行い、必要に応じて、児童相談所等の福祉関係機関や警察など関係機関と連携し、家庭環境の改善を図る。 			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	29,009	9,669		19,340
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績
	活動 指標	相談件数	—	823件
	成果 指標	1,000人あたりの不 登校児童生徒数	—	13.3人
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> 児童相談所や警察などの関係機関と連携し、児童生徒を取り巻く環境の問題解決を図った。 家庭環境に問題を抱える児童生徒が増加しており、今後もスクールソーシャルワーカーの増員や資質向上研修を行うとともに、関係機関と連携し、家庭環境の改善を図っていく 			

I 学びを伸ばす（人材力）				
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成				
(19)「白川文字学」普及活動事業			生涯学習・文化財課	
[事業目的]	幅広い世代に、白川静博士の業績や白川文字学について学ぶ場を提供し、白川文字学の普及を図る。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> 白川文字学の普及活動 「第8回白川静漢字教育賞」、「白川文字学ゼミ」「白川文字学こども漢字教室」の開催、「出前講座」の実施、全国の漢字教育団体との交流等 			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	673			673
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績
	活動 指標	漢字学習講座等の 開催	12回	11回
	成果 指標	漢字学習講座等へ の参加者数	500人	580人
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> 「第8回白川静漢字教育賞」は中止となったが、新型コロナウイルス感染拡大防止の対策を取りながら、「白川文字学ゼミ」3回、「白川文字学こども漢字教室」8回などを実施した。 今後も運営方法を工夫しながら幅広い世代に白川文字学を学ぶ場を提供していく。 			

I 学びを伸ばす（人材力）				
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成				
(20)文化財指定促進事業			生涯学習・文化財課	
[事業目的]	県民の財産である文化財を保存し、学校教育や観光への活用を図るため、国指定等に向けた調査を推進する。			
[事業内容]	建造物、民俗、古文書等の調査			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	2,171	386		1,785
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績
	活動 指標	現地調査件数	27件	24件
	成果 指標	文化財指定件数	10件	11件
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> 「大音家文書（五千七百四十六通）（若狭町）」が国重要文化財に指定された。 「紙本全地著色 三十六歌仙図（大野市）」等、新しく10件の文化財が県指定文化財に指定された。 「旧浅井薬店（小澤金物店）店舗兼主屋（越前市）」、「旧大和田銀行本店社屋（敦賀市）」など17件が国登録有形文化財に登録された。 			

I 学びを伸ばす（人材力）				
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成				
(21) ㊦ 全国高等学校総合体育大会開催準備事業				保健体育課
[事業目的]	3年度に本県を中心に北信越ブロックで開催する全国高校総体に向け、実行委員会を設置し、開催準備を進める。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> ・総合開会式や競技別実施要項、医療救護計画、輸送計画等の作成 ・総合開会式式典練習やカウントダウンイベントの実施 ・感染症対策の検討 等 			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	44,401		10	44,391
[事業の目標 および効果]		内 容	目 標	実 績
	活動 指標	—	—	—
	成果 指標	3年度全国高 校総体の開催	—	—
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> ・東京五輪延期に伴う日程および会場の変更を決定したほか、運営体制や運営予算、実施要項および新型コロナウイルス感染症対策方針等を策定した。 ・県内高校生によるカウントダウンイベントや各種イベントでの大会PR活動を行い、大会開催に向けた機運醸成を図った。 ・3年度の開催に向けて、さらに準備を本格化し、円滑な大会運営を目指していく。 			

I 学びを伸ばす（人材力）				
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成				
(22) ㊦ 競技力向上対策事業				保健体育課
[事業目的]	競技力向上対策を実施し、国民体育大会をはじめスポーツの全国大会において本県選手が優秀な成績を収めることで、本県のスポーツの普及・振興を図る。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> ○有望選手の確保 <ul style="list-style-type: none"> ・トップアスリートを目指す子どもに育成プログラムを提供、県内強豪高校へ進学した選手の下宿費を支援（補助事業者：県スポーツ協会、補助率：定額） ・「スポジョブふくい」により、アスリートの県内就職を支援 ○選手の育成・強化 <ul style="list-style-type: none"> ・県外遠征等支援（補助事業者：県スポーツ協会・高体連・中体連等、補助率：定額） ・「チームふくい」に県外の優秀な指導者（スーパーアドバイザー）を配置 ○競技環境の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・地域に根差した新たなお家芸競技を育成（補助事業者：市町、補助率：1/2） ・国体クラブチームの自立を支援（補助事業者：競技団体、補助率：定額） ・スポーツ医・科学の面からの選手サポート 等 			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	552,648		100	552,548
[事業の目標 および効果]		内 容	目 標	実 績
	活動 指標	新規選手確保数（少年・成年）	50人	50人
	成果 指標	全国大会での上位入賞者数 （1位～3位）	100人	130人
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響で各種大会が延期・中止となり、選手の強化活動も制限されたが、可能な限り競技力向上対策に取り組み、目標を達成した。 ・トップアスリートを継続的に輩出していくため、今後も選手の育成・強化や指導体制の充実に取り組む。 			

その他				
(1) こども歴史文化館展示事業			生涯学習・文化財課	
[事業目的]	福井ゆかりの人物(先人・達人)の生き方や業績等を展示や講座、出前教室等により紹介し、郷土の歴史文化の理解を深め、福井に誇りをもった子どもを育てる。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> ・普及事業…各種イベント、出前教室等の実施 ・発掘事業(調査研究)…未開拓の人物情報の調査研究 ・資料収集事業…実物資料の収集等 ・特集事業…企画展の開催 			
[決算額] (単位:千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	11,313		33	11,280
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績
	活動 指標	企画展開催回数	3回	3回
	成果 指標	利用者数	60,000人	32,729人
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> ・「日本近代鉱物学の祖」和田維四郎や比企忠など、福井ゆかりの人物(鉱物学者たち)にスポットを当てた特別展を開催した。 ・新型コロナウイルスの感染拡大防止による休館等により、利用者数が減少したが、今後は企画をより充実させ、利用促進を図っていく。 			

その他				
(2) ふるさと文学館事業			生涯学習・文化財課	
[事業目的]	ふるさと文学館において、福井ゆかりの作家や作品の魅力を伝える展示等を実施するほか、若者の創作活動を応援し、文学に親しむ機会を増やす。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> ・企画展の開催 ・若い世代の創作活動を支援する文学ゼミや文学講座等の開催 			
[決算額] (単位:千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	23,245		166	23,079
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績
	活動 指標	企画展開催回数	3回	3回
	成果 指標	入館者数	65,000人	46,883人
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナ感染拡大防止のため、「則武三雄没後30年コレクション」展は会期を延長し、「石川九楊の世界」展は秋季に開催した。中止となった「山と文学」展はデジタル展示としてホームページに掲載するなど、今後、非来館型の展示も展開していく。 ・講演会・文学講座は、規模を縮小し対策を講じながら開催し、高校への出前授業は作家によるリモート講義となったが、各教室に配信され多くの生徒が視聴し、小説への関心を高めた。 			

VI 有識者からの意見

○ 産業能率大学経営学部教授 藤岡 慎二

この状況を誰が予想できたであろうか。1年で収束すると思われていたコロナ禍は、未だ収束の目処が立っていない。多くのスポーツ大会、コンテスト、展覧会などが中止、もしくは規模が縮小された。オリンピックも開催が危ぶまれた。大学入試改革における英語の外部試験導入や4技能試験、国語や数学における記述式の設問は正式に見送りとなった。AIやブロックチェーン技術が社会実装され、様々なテクノロジーやサービスが生まれ、市民生活にも影響を与え始めた。

答えが1つではない変わりゆく社会に向けて、次年度から高校では新指導要領が始まる。特に大きい変更点である「総合的な探究の時間」や教科における探究の授業実施に向けて教員の不断の努力が今まきに行われている。21世紀に入り20年、変化が激しい時代は続いており、Society5.0に向けての教育環境の整備が喫緊の課題である。求められる学力も多様化し、一般的な学力のみならず、体育・美術・音楽・ふるさと教育が創造力の源となり、社会を前進させる時代になったことは海外におけるGAFAsを筆頭としたテクノロジーとデザインを融合させた巨大企業の出現や、地方創生政策からも明らかだ。

福井県は継続して、常に多様化・複雑化する時代を先取りした教育政策を立案し、実現させている。関係者の方々のこれまでのご尽力に敬意を表したい。

令和2年度にスタートした「福井県教育振興基本計画」における8の基本方針に基づき、施策の方向性や内容、教育委員会や各種審議会、または現場の教員の方々の活発な活動状況が本報告書に記されている。昨今の教育分野のみならず、予測不可能で激変する今後の変化に対応すべく、短期・中期・長期的な対応策を考え施策化している。教育委員会のみならず、各現場の関係者、教員の方々、実践に参加する外部人材の尽力が見える報告書となっており、尊敬の念を示したい。

昨年度は

- ・地域コーディネーターによる地域連携
- ・福井で学び、福井で活かす人材の育成
- ・人口減少時代における長期的な高等学校の方向性について

以上の福井県の施策に関する見解を述べてきた。昨年度の施策は今年度も継続して取り組まれている。今年度は、昨年度と同じく、筆者が考えている教育現場における以下の課題を3つ挙げ、変わりゆく社会状況、福井県の施策が如何に対応しているかについて述べたい。

① 学校の教員以外の外部人材活用

文部科学省は、“学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現する社会に開かれた教育課程を実現することが必要である。(中略)多様な専門性を有する外部人材を活用する事例を創出することで、これまでの教師だけでは提供しきれない教育を実現することを目指す。あわせて、児童生徒に様々な人との関わり合いをもたらすことのできる学校教育の実現を目指す。”として学校教育における外部人材活用事業を進め、多様な経験を有する人材が学校現場に円滑に参画できる環境を整備するため、学校現場と外部人材をつなぐ仕組みづくりを行っている。

確かに学校のみならず、生徒の家庭環境や学校を取り巻く社会の状況は年々複雑化している。家庭・社会に対応するだけでなく、社会に開かれた学びを実現するためには、かつてのように教員のみで対応するのは困難であり、福井県では以下の事業により外部人材を学校現場に派遣・配置している。

「新たな部活動指導体制推進事業」では部活動指導員

「地域と進める体験推進事業」では地域コーディネーター

「芸術教育推進事業」ではプロ奏者

「外国人児童生徒等支援事業」では日本語指導員

「SNS相談事業」では臨床心理士の資格を有した相談員

「スクールカウンセラー配置事業」ではスクールカウンセラー

「スクールソーシャルワーカー配置事業」でスクールソーシャルワーカー

多様な外部人材が学校教員と協働し、複雑・多様化する社会環境に適応する施策を実施している。福井県は国が実施している施策と同等、もしくはそれ以上の施策を積極的に実施しており、成果を期待している。

② 児童・生徒が活躍する場の創出・整備

児童・生徒の育成には指導のみならず、その指導された内容を実践する場が重要となる。また“立場が身を育てる”という言葉があるように、その場・環境においての立場が児童・生徒に当事者意識や責任感、使命感を産み、学びへの意欲を醸成する。児童・生徒の“我がこと化”を促す場を大人が創ることは当然、重要である。しかし、コロナ禍により、その場の創出・整備が困難となる中で、福井県では以下の事業で実現している。

「次世代につなぐ美しい県立学校施設整備事業」では時代に即した学習環境を整備した。

「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」では地域と協働するリーダーとしての高校生育成の場を提供した。

「生徒の進学希望実現支援事業」では各高校での普段における進路・進学指導のみならず場と自身を定点観測する機会を提供している。

「英語力向上事業」では学校での英語教育から更に発展させ、英語を発展的に学び、発揮できる場を提供している。

「オンライン学習環境整備事業」では場の提供において、足かせになっているコロナ禍に対応し、更に生徒の学習状況に応じた個別最適化を図っている。

「芸術教育推進事業」「『白川文字学』普及活動事業」「ふるさと文学館事業」では児童・生徒の創造力の源であるアートや文学に触れる場を提供している。

「ふるさと教育フェスタ開催事業」「こども歴史文化館展示事業」ではふるさとを知り、ふるさとを発信し、愛郷心を醸成する場を提供している。

「競技力向上対策事業」では各学校での体育指導に加えてスポーツを学び、不断の努力を発揮する場を創出している。

筆者が考えるに、ふるさと教育や英語力の向上のみならず、芸術や文学、スポーツにおける発展的な教育機会の提供は今にもまして重要になる。

文学は、古代から現在までの社会の変化や人類の進化の中で、先人・先哲の叡智は、これから多様化・複雑化する社会を生きる児童・生徒たちに生きる知恵、そしてアイデンティティの確認により、心の安定を生み出す。「自己効力感」の研究で有名なアルバート・バンデューラは自己効力感の源泉として直接体験のみならず、他者の経験を挙げる。人間は他者の経験に共感し、自己効力感を産むことができる。

芸術は、テクノロジーやデザイン、商品・サービスとの相乗効果により大きい成果を発揮するだろう。高度化するテクノロジーや商品、サービスは人々に受け入れられなければ社会実装ができず、社会に恩恵を与えられない。高度化するテクノロジーや商品、サービスと人々を繋げる設定は複雑な機器やユーザーインターフェースではなく、シンプルで美しい、人々を魅了するインターフェースである。ソニーやPanasonicを抑え、Appleが台頭した理由はそこにある。今やテクノロジーだけでは社会実装ができず、社会課題の解決や付加価値の創造はむずかしい。芸術教育による「シンプルさ・美しさ」がテクノロジーと人々をつなげ、社会実装を促し、世界を一步前に押し出す、そんな時代になったのだ。

スポーツは、経験の言語化を促進する面での重要さがある。スポーツにおいては選手の勝ちたい、より高みへ登りたい、より良い演技をしたい根源的な意欲が選手たちを不断の努力に駆り立てる。なぜ成果が出たのか、を言語化することで成果を再生産、再現できる。なぜ成果が出なかったのかを言語化すれば、失敗を回避できる。成果を再現し、失敗を回避できれば、パフォーマンスは向上する。スポーツは選手たちの根源的な意欲により経験の言語化を促し、パフォーマンスを向上させる絶好の機会である。スポーツのみにとどまらず、勉学、仕事などほぼ全てに影響する。スポーツの学習効果を精神鍛錬や健全な身体の育成から一步前に押し出すことで、新たな可能性が見えてくる。

福井県のこれらの施策は、すぐに成果が見える短期的な側面もあれば、すぐに成果が現れない中長期的な側面もある。ぜひ、県民や関係者に見守って欲しい。

③ 実際の社会に生徒を触れさせる機会提供

児童や生徒を学校の枠を越えて、実際の社会に触れさせる機会は貴重であり、重要である。普段は家庭で機会が提供されていることだが、家庭環境の格差により機会提供に格差がある。その格差はいずれ生徒の学習意欲や進路選択にも影響する。

家庭における価値観の世代間伝達は社会や産業構造が変わらない中では、取り沙汰されなかった。しかし、多様化・複雑化する中では家庭における価値観の世代間伝達こそ、児童・生徒たちのキャリアにおける足かせになる危険性をはらんでいる。

必要なことは、家庭における価値観の世代間伝達を乗り越える機会を学校が提供する施策である。福井県では以下の施策により家庭における価値観の世代間伝達を解決しているように考えられる。

「引き出す教育・楽しむ教育実践事業」ではICTなどの先端技術に触れる機会提供

「特別支援教育に関する支援体制充実事業」「農業体験等による特別支援学校キャリア教育推進事業」では特別支援が必要な児童・生徒向けに理解促進による当該児童・生徒の新たな可能性を自身と保護者、周囲の関係者が理解する。

「福井フューチャーマイスター事業」では県内における就業について知る機会提供により“地元には仕事がある”と知る機会提供

「高校生起業家育成プロジェクト事業」では高校生には馴染みがない起業の選択肢を理解する機会提供

より多くの児童・生徒が自身の可能性に気づき、伸ばしていける環境は家庭や学校に役目を押し付けるのではなく、家庭と学校、地域社会は越境して機会を提供する中でこそ実現できると信じている。

昨年度の福井県における教育施策は多様化・複雑化する社会に対応すべく、

- ① 学校の教員以外の外部人材活用
- ② 児童・生徒が活躍する場の創出・整備
- ③ 実際の社会に生徒を触れさせる機会提供

を実施している。現在の課題に対する対応として先進的であることは确实だが、今後、福井県全体のビジョンにおいて、掲げるビジョンの実現に向けて戦略的な教育施策の実施が求められる。しかし、戦略的な施策は短期的な成果が求められる側面がある。短期的な成果を達成しつつ、ビジョンの実現における中長期の成果を見守るスタンスが県民には求められる。まさに、ロマンとソロバンのバランス、「論語と算盤」である。

○ 福井県PTA連合会 会長 佐野 弘

第3期「福井県教育振興基本計画」（令和2～6年度）では、「一人一人の個性が輝く、ふくい未来を担う人づくり ～子どもたちの『夢と希望』『ふくい愛』を育む教育の推進～」の基本理念のもと、子どもたちの自己肯定感を引き出し、主体的な知的好奇心、探求心を醸成する高い次元の教育の到達に向けて、家庭・地域・学校が連携し社会全体で子どもたちを育むことが必要とされています。そして、8つの基本的な方針を策定し、それぞれ具体的な数値目標とともに教育施策として取り組むとしています。

この基本計画の5年間のスタート地点となる令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止など、教育現場ではこれまで経験したことがない対応が求められてきました。限られた人員と予算の中で大変なバランスをとりながら、ご尽力をいただいておりますことに、心から敬意と感謝を申し上げますとともに、さらなる福井県教育の飛躍と発展を願ひまして、本報告書を踏まえた所見を述べさせていただきます。

まず、すべての県立学校に高速ネットワーク環境を整備し、すべての生徒にタブレット端末を配備して頂きました。折しもコロナ禍におけるリモート学習、ペーパーレス化による教員の負担軽減に向けて、ICT機器がすべての家庭でも最大限に活用されるよう、リモートルータの貸し出しなど積極的に進めていただければと思います。

次に、東京オリンピック・パラリンピックでは、福井県出身選手の活躍が大きく報道されておりました。今後も、世界で活躍する個性を育む場として、充実した部活動の在り方、あるいは地域の指導者との連携協力についてさらに議論を深めていただければと思います。

また、豊かな心の育成の一環として学校では様々な読書活動が推進され、全国の調査では、平日の読書時間は改善傾向にあるようです。しかし、学校以外での読書時間が少ないことが問題となっています。ぜひ家庭でも、子どもたちと読書したり、公共図書館を利用したりする機会を設け、活字から想像力を膨らませる楽しさの共有を促す仕組みづくりを継続いただければと思います。

それから、小学校5、6年生の英語の教科化がスタートし、教科担任制も導入されました。県内高校における短期・長期の留学率は全国トップクラスを誇っております。今、急激な人口減少に陥っている日本の将来にとっては、今の子どもたちが世界さらには宇宙など新しい領域でも競争力・存在感を発揮できる人材として育つことが求められているのではないかと思います。是非、今後もさらに福井から世界に飛び出す機会を促すよう努めていただければと思います。

現在、県内で特別支援が必要な子どもたちの割合は約7%（およそ14人に1人）で、年々増加傾向にあります。外国人についても特に越前市では人口の6%に達し、日本語に慣れていない子どもたちのケアが重要になってきています。県ではSNS等を活用した相談窓口の設置、日本語支援員やコミュニケーションサポーターの配置など教育環境整備を進めていただいておりますが、今後も相談件数の増加が見込まれ継続的に進めていただければと思います。

一方、いじめの認知件数がこの5年間で倍増しております。特に小学校では年間1,000件を超えてきており、法的な助言を受けるスクールロイヤー体制なども整備していただいているところではあります。ただ、増え続ける件数に歯止めをかけるため

には、家庭はもちろんですが、学校においても子どもたちとしっかり向き合う時間を確保することが肝要ではないかと思えます。そこで、特に先生方の物理的・心理的余裕が保たれるように一層のご配慮をお願いします。

それから、ふるさと教育フェスタや高校生に対するキャリア教育セミナー、県独自のビジネスアイデアコンテストの開催など、『ふるさとを愛する心と社会に貢献する志の育成』としてご尽力いただいております。ここで重要なのは、子どもたちが当事者として、福井や地域の課題をとらえ、自分たちが住みたいところで何をしたら良いか考える力をつけることだと思います。当然、受け皿になるであろう地域、あるいは地元企業においても、将来の在り姿をしっかりと提示し、子どもたちの意識とのすり合わせ、すなわち人同士のつながりを醸成していかなければならないのではと思います。学校の先生だけでなく、地域（例えば各地区公民館との連携）や企業から外部講師として招くなど、子どもたちとのシームレスな交流の場を作って頂ければと思います。地域にとっても生涯学習の機会として相乗効果が期待されると思います。

そして、先述のいじめの認知件数の抑制においても言及しておりますが、今の先生方は超多忙をきわめているという認識をしております。働き方改革を推進していただいておりますが、一方で、子どもたちに向かう時間も増えてきているのでしょうか。教員の免許更新制も廃止されるとのことです。幅広い年齢層からの教員採用により、より厚みのある人員増強に努めていただければと思います。同時に、議事録作成の自動化、配布物のペーパーレス化など、時代に即したIT機器の一層の活用により、先生も生徒も真にゆとりある教育の実現を期待したいと思います。

最後に、学校現場の先生方、ならびに教育委員会の皆様におかれましては、新型コロナ対策のため、鋭意密接に情報共有を図りご対応いただいておりますことに対し、重ねて衷心よりお礼申し上げて、私の意見とさせていただきます。